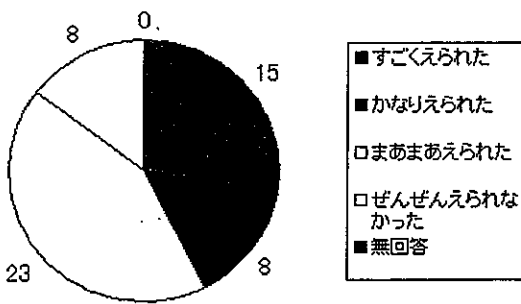
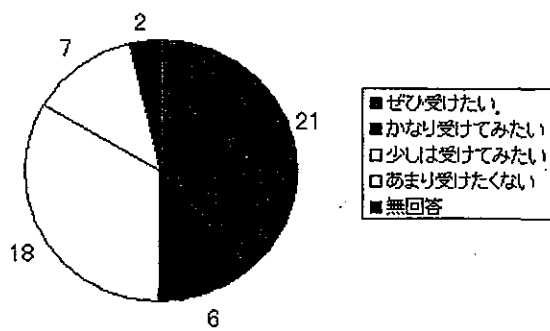


Q5 話し合いから、将来のことを考えるヒントがえられましたか。



Q6 こういう授業をまた受けてたいですか



自由記述から

コミュニケーション派

- ・ 楽しかった (9名) ・ おもしろかった (2名) ・ よかった ・ 笑える
- ・ ありがとう ・ すごく楽しかったです。また来て下さい (3名)
- ・ 話がずれたけど、楽しかった。 ・ 今日1日ありがとうございます。話が楽しかったです。
- ・ なんかいろいろ話せて楽しかった。 ・ 自分のことが言えたのでよかった。
- ・ 自分の言えることが言えてよかった。カメラにもうつれたし最高！！
- ・ たいへんだけど、よかった。 ・ ありがとうございます。
- ・ あまり話せなかったけど、楽しかった。 ・ 話しかけられる確率が高かった。

役に立った派

- ・ 将来のことについて役に立ちました。またこの授業を受けたいです。
- ・ 将来の役にたったと思う。 ・ これからの目標に役に立ったと思います。
- ・ とても充実した授業になった。
- ・ ありがとうございます。将来のヒントになりました。
- ・ 将来のことはまだわからないけど少しずつ考えていかないと思った！
まだ将来について考えてないけど、考えたほうがいいと思った。
- ・ いろいろな意見が聞けて参考になった。
- ・ 自分のことを考えるいい機会だった。夢をかなえるのは簡単じゃないから、もっと考えようと思った。

やっぱり好きなこと派

- ・ 今は遊びたいから将来のこととかまだわからない、でも自分の好きなことでお金がもらえるようにかんばる。
- ・ よくわかんなかったけど、私は好きな事をやりたいです。

つまらん派

- ・ つまらん、次はお前だ！ ・つまらん、からだだるい。
- ・ つまらねー!!少しだけ楽しかったかも。 ・つかれた。
- ・ ねむいよ、ビデオか映画みたい。 ・ケーブルテレビよんでこいよ。

その他

- ・ 将来は決まっているので、とくに利にならなかった。
- ・ 1～6のアンケートで3にしていますが、ほとんど「どっちともいえない」です。つまらないというわけではないので。

4 成果

研究授業を通じて、このようなケーススタディを通したキャリア教育プログラムには次のような可能性が開かれていると感じた。

- 1) 身近で等身大のケースについて自分のことばで語り合うことで、生徒の間に、進路について日常的に語り合う関係を築くことができる。
- 2) 多様なキャリア・パスのメリットやデメリットを自分に引きつけて、将来について考える機会をつくることができる。
- 3) 進路についての同世代のさまざまな経験や語り方を知って、それらを自分に役立つ形で利用できる可能性がある（例えば、仕事に就くのは「好きだから」だけじゃない／何を大切に思うかで、いろいろな働き方があって、迷いながらみんな選んでいる／仕事のつらいことも何とかやりすごして気分転換し、乗り越えていく生き方もある／自分なりの楽しみを仕事の中に見つけて語ることで自分を支えるやり方もある、など）。

また、授業の形態として、

- 4) 年齢の近い大学院生の存在がディスカッションに有効だった。今後、地域運営学校へ向けて、地域の大学生や大学院生などの人材資源を生かしたプログラムづくりが有効だろうと思われる。

そして、今後に向けての示唆として、

- 5) 今回は、古賀研究室の研究データが提供されたケースだったが、すでに働いている本校卒業生を訪ねて話を聞くなどの形でも、生徒が等身大の経験を知り、将来について考える機会にすることができるのではないか。
- 6) 生徒たちはすでにアルバイトを通して働く経験をしてきており、新鮮なその体験について語り合いたいという欲求を持っていることがわかった。これをモチベーションとして、今後校内で、アルバイトから働くことについて考えるプログラムづくりができるのではないか。

IV 実践研究報告Ⅱ ～授業改革への取り組み～

3 授業改革アンケートの実施とその活用

(1) アンケート実施に至る経緯

本校には、学力に課題を抱える生徒が多数入学してくる。学習に向き合う意欲が乏しい生徒や、真面目に取り組むが、基礎的な学力が不足していると思われる生徒に対して、教員は日々の授業で様々な工夫をし、生徒の学習意欲を向上させる方法を模索している。学力向上のためには、まず現在行なわれている各教員の工夫を持ち寄り、共有することが有効ではないかと考え、9月末にアンケートを実施した。アンケート項目は次の通りである。なお、アンケートは教科と教えている学年を書くが、無記名とした。

1. 田奈高校の授業で工夫しているところ（あるいは気をつけているところ）。
 - ① 教材について
 - ② 授業の展開について
 - ③ 生徒への対応について
 - ④ その他
2. 上手く行っていると思う部分。
3. 上手く行っていないと思う部分があれば、それはどのようなところか。
4. 現在、授業の中で、生徒の学習意欲を高めるために行っていること。
5. 今後、授業で取り組んでいきたいと思っていること。
6. 他の人の取り組みで、いいと思う取り組み。
7. 授業改革に向けて、研究開発グループで取り組んで欲しいこと。

(2) アンケート結果

行事前の忙しい時期で、記述する部分が多いアンケートだったこともあり、アンケートを提出したのは、9名にとどまった。しかし、提出されたアンケートは、どの項目もびっしりと書かれ、貴重な意見が多く含まれていた。そこで、アンケート結果を、項目別にまとめて通信の形にして、全教員で共有できるようにした。アンケート結果及び通信は次の通りである。

<田奈高等学校の授業改革に向けてのアンケート結果>

1. 田奈高校の授業で工夫しているところ(あるいは気をつけているところ)

① 教材について

- ・ プリントを穴埋めにし、写すのに疲れて話を聞けなくならないよう、負担を少なくしている。(理)
- ・ 視覚的に印象に残る物を使うようにしている。(家)
- ・ 内容の質は維持しつつも、量を少なく、説明をわかり易く、と心がけている。教科書を使わなくても良いようなプリントを用意する。自己評価ができるような課題を用意する。(芸)
- ・ 応用問題希望者にはプリントと個別レッスンを提供している。(数)
- ・ 日常の話題から、英語を導入するようにしている。テキストを少しアレンジして。(英)
- ・ 教科書を中心に、書く作業とノート提出を必ずするようにしている。(保)
- ・ ゲームを多くする。(体)
- ・ 生徒の思考や判断に重きを置く内容の時は、プリントを準備。できる生徒は自分で進められるように、できない生徒は個別指導できるようにする。生徒の興味・関心を引き出したり、理解を深めるために、IT教材を活用。理科ネットワーク(JST)や東京書籍、NHKなどのアニメーションや動画をスクリーンに投影している。(理)
- ・ 自分たちの日常生活に活かせるもの、今までの経験を活かしていけるものを取り上げる。とりかかやすく、そこから幅を広げていけるものを選ぶ。最終的に全員が完成(終了)できる形で実施す

る。(家)

- ・一時間で使うプリントを説明用と問題演習用に分け、生徒が取り組みやすいようにしている。(数)

② 授業の展開について

- ・できるだけ授業の最後に問題を出し、本人の理解度をチェックさせている。(理)
- ・50分×2時間続きということで、飽きない展開を。プリント(硬筆)、磨墨、字書や携帯での調べなど。(芸)
- ・板書し、全員書き終わってから説明を始める。生徒はノートを取ることに集中して、話が聞けないので工夫している。(数)
- ・聞く → 練習 → 書く → 発表 ができるようにしたい。(英)
- ・毎回同じ流れで授業を進めている。
- ・説明する際、身近な例や、小学校で獲得する概念から拓げていくように心掛けている。考えたり、表現したりする時間と、課題を用意し、机間巡視をしながら声掛けをするようにしている。教科書を利用した調べ学習は、全生徒が意欲的に取り組んでいたと思います。(理)
- ・2時間連続の座学の時には、途中で自分で考えて行う作業を入れたり、授業の終わりに「学習チェック」として、その時間のまとめテストのようなものを行い、各々がその日何をやったかがわかるようにする。
- ・2年生はTTをしており、授業を進める人とフォローに入る人が分担できて、生徒の学習意欲や成果が上げられている(赤点になりにくい)。これはとても効果的である。(家)
- ・9月から試み始めたばかりですが、グループ学習を取り入れている。「分からないときは、まず周りに聞いてみよう」と指示をしている。(数)

③ 生徒への対応について

- ・去年は、うるさい子ばかり当てて発言させていたが、今年はまんべんなく当てるようにしている。
- ・授業についてこられる力のある生徒には、ハードルを上げて、厳しく甘えを許さない姿勢を示し、理解がのんびりな生徒には個別対応をする。(芸)
- ・基本を説明した後、生徒同志で教えあいの授業にしている。(数)
- ・注意はするが、授業を進めることをより重視している。(英)
- ・全体への指示に加えて、個々人の近くに行き行って指示をする。繰り返し声かけをするようにしている。(体)
- ・会話を大切にしています。私語が多い生徒は発言の機会を多くし、誉めることで授業に向くようにし、静かに取り組む生徒は机間巡視の際、個別に誉めたり、励ましたりするようにしている。
- ・授業開始と終了の時には礼をするようにしている(一学年のみ)。
- ・実習では、手の止まっている生徒を中心に、声かけと個別のサポートをする。一人一人の頑張りをほめる。(家)
- ・座学では、生徒の発言を大切にしたいと思っているが、なかなか上手くいっていない。

④ その他

- ・携帯電話をいじっていると授業点を減点しています。それは毎回プリントを集め、評価とメッセージ(減点理由、立ち歩き、ケータイ、注意多い、睡眠等の簡単なもの)をつけて返すと昨年よりはるかにいじる子が減りました。
- ・一回の授業で必ず一回は全員と話をしている。
- ・課題やノートの提出機会を多くしている。
- ・一つのテーマが一回の授業で終わるよう、内容の精選と適度な課題の提示に心掛けている。

2. 授業で、上手く行っていると思う部分

- ・今の生徒の気持ちをよんで、言葉にしてあげる。その後に「頑張ろう」と声をかける。

- ・使った用具を自ら片付ける、清書を前に提出する、その他の練習作品の管理は自分で行う。(以前はこの基本すらできていなかった) (芸)
- ・3年生の選択、2年生の自由選択など少人数授業(20人以下)では、生徒自らの創作意欲を引き出しながらの授業を、余裕を持って展開することができる。(芸)
- ・生徒とのコミュニケーションのとり方。集中する時としない時のメリハリのつけ方は上手くいっている。
- ・一人ひとりと対話できる時間をとれる(語学だからか)。(英)
- ・キレそうな生徒にもギャグで対応できる。
- ・一人一人に根気強く話しかけていると、だいぶ全体への指示が通りやすくなってきた気がする。(体)
- ・生徒の発言を活かして、授業を深めていこうとしている点。

3. 授業で上手く行っていないと思う部分

- ・楷書などの実字的な部分、目に見えて理解が容易な分野には興味を示すが、○書、○書などの実用的でない部分や、感性に訴える芸術的要素の高い分野には抵抗が多く、多人数の時は、うまく生徒を乗せることが難しい。(芸)
- ・考えなければ行動できないような課題、考えて工夫しなければならないような課題には、積極的に取り組まない。
- ・もっと発展した内容の授業でないと退屈してしまう生徒への対応。(数)
- ・板書が一定していない(生徒が見て、どれを書くのか理解できないときがある)。(英)
- ・生徒のノート指導。
- ・体育で出席者数が激しく少ない時、いつも頑張っているゲームに取り組んでいる子の対戦相手がマンネリ化してしまう。予測不可能な人数の変化を予測した対応が必要。(体)
- ・50分間、考えて取り組むような授業展開ができていない。理解できていなく、板書を写すだけの生徒がいる。話を聞いて理解できる生徒が少ないので、生徒が考えるような設問をし、つまづきに気づいて助言するような立場でいたいのが難しい。(理)
- ・生徒の発言から授業をうまく進めていくこと。

4. 現在、授業の中で、生徒の学習意欲を高めるために行っていること

- ・なぜ学習しなければいけないのかを将来的、現実的な視野から分かるように話すこと。
- ・生徒の創作欲求を刺激し、出てきたものは可能な限り、受け入れてやること(少人数の場合)(芸)。
- ・3年生に対しては、進路に向けて、硬筆、新聞記事、履歴書などを取り入れる。(芸)
- ・生徒が最近興味を持っている情報を早くつかんで、授業に取り入れる。(数)
- ・難しいことを習っているのではないと安心感を与えたい(多くの場合)。易しすぎる時は発展させたことを言う。(英)
- ・2,3年生はゲームをすることで(時間管理をして長くとること)、意欲が保たれているように思う。一年女子は他の人とマッサージし合ったり、簡単なリレーゲームなど遊びを入れて気分転換をしている。(体)
- ・できた生徒を誉めることで、生徒間で教え合うことができる雰囲気を作る。IT教材を活用して視覚的に理解させる。(理)
- ・その日のポイントを絞ること(あまり難解にしない)。(家)
- ・「学習チェック」や、「自己評価」で、各自がその時間を振り返ることができるようにする。(家)

5. 今後、授業で取り組んでいきたいと思っていること

- ・これから計算問題が増えるので、可能なときだけでもTTを取り入れる予定。(理)
- ・グループ学習や共同作業。お互いの作品を批評しあうなど、コミュニケーション力、相手を思いやる気持ちを育てたい(今も少人数授業では取り組んでいるが・・・)。(芸)

- ・指名した生徒に予習させて、ゼミ形式で行いたい。
- ・共通文法教材の作成。Visual aid の導入をもっと。(英)
- ・ゲームではなく、基本的な練習やチームで工夫を生徒自身が考えられるような指導ができるように、私自身頑張りたい。(体)
- ・最初の 10 分間、導入として全体像を説明し、その後 20 分間、教科書を活用して自分で勉強する時間を設ける。最後の 20 分でまとめや具体的な説明をする。家庭学習でするようなことを授業で実施し、自主学習の方法と習慣をつけさせたい。(理)
- ・PC を利用した学習。

6. 他の人の取り組みで、面白いなあとか、いいなあとあなたが思っている取り組み

- ・ベテランの先生の授業は素晴らしい。大きな声を出す訳でもなく、淡々と進めていて、空き時間があればたくさん見たいが、なかなか時間が・・・。
- ・席をグループに分け、グループディスカッションを授業で行っている。
- ・小テスト。(定期的に)
- ・生徒のリアクションに負けて、自分がやろうと思っていたことを実現できない時があるので・・・。常に方針を曲げずに、ルールを貫き通すことをやりたい。

7. 授業改革に向けて、研究開発グループで取り組んで欲しいこと

- ・難しい要望とは思いますが、対象生徒像をはっきりさせて欲しい。各職員が勝手に生徒像を作り、それに向けて意見を言っているように思うから。一つに絞れないとしても、何通りかで。
- ・パワーポイントを授業で使えるような環境にして欲しいです。数学は関数の時、特に必要性を感じます。(数)
- ・ビデオ撮りしてみる生徒の状況で研修を。

(3) アンケートの活用

アンケート結果は全体に配ると共に、授業評価についての教科会の際に、内容を共有して活用してもらおうこととした。しかし、懸案事項の多い会議の中で、十分に話し合いを深めることはできず、活用の仕方は個々の教員に任された形となった。貴重な内容が多く含まれていたことを考えると、今後、アンケート結果をさらに活用していくことが望ましい。それにはアンケート結果を読むことだけではなく、やはり具体的な事柄について、話し合うことが有効であろう。

例えば、項目の1①で出てきた、理科の「プリントを穴埋めにし、写すのに疲れて話を聞けなくなると、負担を少なくしている」や、家庭科の「視覚的に印象に残る物を使うようにしている」工夫、あるいは理科の「生徒の興味・関心を引き出したり、理解を深めるために、IT教材を活用」などは、具体的にどのようなことを行っているのかを紹介してもらうことで、すぐに他の教員の授業に役に立つと思われる。また、項目4の、授業で学習意欲を高めるために行っていることは、行って見て、どう上手くいっているのか、どこに課題があるのかを深めていくことが、今後の学習意欲向上のヒントにつながると考えられる。次年度にまたがる形になるが、アンケートを更に活用して、議論する機会を作っていくことが有効である。

本校では、生徒指導や、会議、部活動の指導などに追われ、なかなか授業についてじっくり考える時間を取ることができないのが日常である。しかし今回、授業改革にかかわるアンケートを行うことができたのは、やはり、学校の中心は授業であり、授業について検討していくことが必要であるということが認識されつつあるということであろう。今後も、授業について検討していく機会を作り、教員全体で生徒の学力向上に向けて、有効な方法を模索していきたい。

4 授業公開週間の実施と総括

(1) 授業公開週間の実施

生徒による授業評価アンケートの結果の検討後、さらに授業研究を進めていくためには、お互いに授業を公開することが必要であると考え、2月上旬に授業公開週間を設定した。入試の準備等で忙しい時期ではあったが、時間の余裕のある範囲で一人だけでも他の人の授業を見ることを目標として行った。一週間の公開週間で、授業見学を行うことができた教員は10名に留まったが、公開された授業は延べ27時間であった。授業見学者には、授業を見て、いいと思ったところを報告してもらい見学メモを提出してもらったところ、集まったメモには、授業を行う上での貴重なエッセンスがたくさん含まれていた。そこで、その見学メモを授業に対するキーワードで編集し、通信の形で発行して全員で共有することとした。

(2) 見学メモの内容

キーワード別の見学メモの内容は次のようなものである。()内の学年、教科は見学した授業である。

① 生徒の心をつかむ話術

声の調子を変えることで、メリハリがついていて、生徒の心をつかむ。古文の文法という普通ならおもしろくない様な授業になりそうだが、ところどころに散りばめられたウイットによって、生き活きとした授業になっている。①「蹴る」の活用。「け、け、ける、ける、けれ、けよ」を覚えにくいから10回言っていると覚えられ、本当に10回おっしゃり、「あの人変な笑い方してるな」と言われそう、という時は、本当に笑いそうになるくらいおもしろかった。②突然英語が出てくる「you see?」「ok?」など。これもいいなと思った。③最後にプリントにない少し難しい問題をさせる時に「応用問題だ」といわず「アドリブだ」とおっしゃったところが、生徒に変に力を入れさせず、リラックスさせて考えさせ、いいと思った。そしてプリントにない、少し考えさせる問題を最後に出すことで、「出来る生徒」への対応もきちんできていたと思ひ感心した。全体に声に抑揚があり、メリハリがあり、大変素晴らしかった(カラオケがお得意なこととも影響しているのでしょうか?) (1年・国語)

教室内のムードが落ちついていて、とても和やかでした。一人一人が安心感を持ってここにいると感じました。先生の声のトーン、話すスピード、間合い、指示が短いこと、とても分かりやすかったです。生徒の行動や発言に、甘やかさず、また厳しくしすぎず返していらして、それでいて授業のペースは変わらないため、他の生徒も集中をさえぎられることなく、進行していたと思います。また、授業の中で、ジョーク?しゃれ?が少しずつちりばめられ、単調なはずの変格活用が楽しく感じました。授業の進め方についても、プリントを配る前に今後の流れを説明してらして、生徒も全体像をつかんで今日の取り組みに入っていて、それがより安心感を持たせ、集中へとつながったようにも思います。本当に真似したくても、今の私にはとても真似ができないと思いました。有難うございました。(1年・国語)

ひさびさに授業における話術の大切さ、有効性を確認することができました。とにかく話が上手い。脳内に浸み込んでいきますね。と言って、聞かせるだけでなく、頭を使わせ、手を動かさせているのはさすがです。(1年・国語)

徒然草の訳をやっていたが、話に幅があり、一つ一つが生徒の心に残るように教えているので、生徒の心に残っていくのがわかった。その状況が今ここで起こっているかのような臨場感があった。生徒は積極的に授業に参加していて、皆、古文を楽しんでいた。本当に素晴らしかった。(2年・国語)

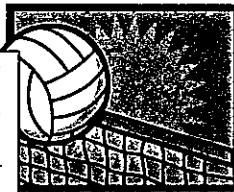


② やる気にさせる声かけ

「覚えても忘れるから覚えなくていい」「数学は極力覚えてはいけない」という言葉は大変新鮮でした。1つ1つの作業において、生徒1人ひとりがノートに書き終わるまで時間を取ったり、「大丈夫か?」という声かけを入れているなど、生徒にとっては、授業に置いていかれない安心感があるのではないかと強く感じました。また、説明の速度、声の大きさ、板書の速度などが生徒にとって適度な状況を保たれていて分かりやすいなあと感じました。大変参考になりました。
(2年・数学)

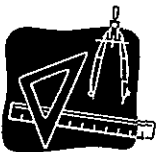
遅刻してきた生徒への関わりが、厳しく、温かく絶妙でした。グループごとの明確な指示が、生徒の素早い行動につながっているように感じました。「全員始め!頑張っって今日中に全部終わらせる!」と言われて、生徒たちには、さあやるぞという空気がみなぎったように思います。皆、意欲的に一斉に始まったのにはびっくりです。集団への指示の出し方、とても参考になりました。皆生徒たちは楽しそうで、熱心に取り組んでいましたね。
(1年・体育)

始まるときに、自然な声かけをしながら出席確認をしているのがいいなあと思いました。生徒の準備をさえぎらない、やわらかな確認でしたね。Aさんを自然な流れの中で得点係になさって、Aさんはすごく頑張りました。ピーピー笛をふいて「Bさん、やる気あるの?」あの一言で、そのチームは頑張りはじめました。それを引き出したのは、先生の「Aさん、頼むぞ」の声かけだったように思います。男子チームのゲームに先生が入られたら、生徒たちはグッと締まって、真剣になりました。嬉しそうでしたね。
(1年・体育)



「困った時には」「ここがポイント」等の声かけをし、解法の筋道がとても明快であった。また、声かけ、指名もこまめ、かつ柔らかく、生徒が指されても答えようとする姿勢を作りやすいように見えた。
(2年・数学)

③ 生徒同士の学びあい



全員が授業に参加しているところ、教えたり聞けたりと生徒間の会話が成り立っているところが素晴らしいと思いました。できた、合っていたという時の生徒の笑顔がほほえましいです。能力差の激しい子どもたちの、解る子、のんびりな子のどちらもが参加し、満足し、力をつけることを求められている今、様々な試みに挑戦されている姿勢には頭が下がります。
(1年・数学)

Aさんに先生が個別に関わった後、Aさんがやる気になり、Bさんに「(3) 解けそう、半分やろうよ」と誘って、二人で黒板で協力しながら解いていたところが良かったです。また男子4人組の熱心さ。他の子の答えを見て、自分の答えを確認して、また考えていました。Bさんはおしゃべりをしながらも、しっかり聞いています。「特別な角度」という先生の説明で、授業に戻ってきて参加して答えましたが、誉められて嬉しそうでした。先生が別解を説明した後、C君から「全部この解き方でできる?」という質問が出たのがすごい。生徒の意欲を感じました。最初に事件があったにもかかわらず、生徒は授業の内容に入っていて、教室全体に真剣な空気を感じました。また、先生の生徒への対応に余裕を感じました。田奈で数学を長く教えていらして、生徒の反応もよく分かっている余裕ですね。大変参考になりました。
(1年・数学)

メンデルの遺伝の法則をプリントでまとめる授業で、「テキスト、ノートを見ていいし、友達と相談しても良い」という授業形態。半数近くの生徒が「どこ? どうして?」などと相談しながら、いわゆる『生徒同士の学びあい』がされていて良かった。生徒も能動的で生き生きしていた。
(2年・生物)

④ 学びに向かう教材の工夫

プリントが初めからやっていると、自然に考えられるようになっていて、驚きました。プリントの段階でしっかり考えていると、素晴らしい作品が出来上がるのでしょうか・・・？ 専門家がお二人いらして、そのアドバイス（個別指導）が入ると、それまで何もやっていなかった生徒が、筆を持って書き始める姿を見て、適切な個別指導の必要性を痛感しました。人数が半分くらいだと、もっと集中してキャンパスに向かうことができますと思いますが・・・。（2年・美術）

単語調べ、単語練習、リスニング、訳など、きめ細かいプリントでびっくりしました。レベルの違う生徒達も、50分の中のどこかでは授業に参加できるような工夫がされていると感じ、参考にさせていただきたいと思います。

（2年・英語）

答え合わせ、テープを聴く、スペリング、読み、プリントの穴埋め、和訳と6種類の活動が展開し、飽きさせない流れの中で、自然に生徒の集中が高まっていく様子にびっくりです。全員が最後まで終わるまで待つのではなく、ある程度のところで切って次に進むのも、緊張感を持続させることにつながっているように感じました。何よりすごいのは答え合わせ！皆が赤ペンを持って〇つけをしています。解いただけで終わらないで答えを確認するって、大事だけどなかなかできないことのように思います。適度に生徒がわかって、答えを知りたいと思うレベルの課題設定が上手くいっているのだろうと思いました。大変参考になりました。（1年・英語）

様々な要素が組み入れられた自作プリントに基づく授業でしたが、10分位の単位で、学習活動が切り替わり、生徒が飽きずに取り組むことができるように上手に構成されていました。生徒も一年間を通じて、この学習形態に慣れていて、自分たちがしなければならないことをよく分かっており、自分から取り組む様子が印象的でした。また、学力が不足しがちな生徒によく声をかけ、授業に上手に参加させていらっやいました。

（1年・英語）

⑤ 生徒との絶妙なコミュニケーション

生徒との掛け合いで進む授業。「これ何だっけ」「×××」「そうだね」「×××」「料理うまいよ」「はいこの場合は」「×××」・・・「発問+返答」であっという間に一時間。授業に関係ないのも無視せず、適当に受け流して、生徒は参加の実感、達成感を得たものと思います。（2年・数学）

声が全体に通じ、黒板の字もはっきりとしていて見やすかったです。生徒の雑談にも適度に応じ、コミュニケーションをとりながら、メリハリをつけてやっている印象を受けました。（1年・化学）

生徒への応答、対応が速い！生徒の（多少うるさいくらいの）リアクションをうまく取り込んで授業を行っており、生徒が取り組んでいるという感じが伝わってきている。（1年・化学）



先生と生徒の関係がすごくいいですね。生徒は声をかけられるのがとても嬉しそうでした。A君は、答えながらニコニコしていて、楽しんで参加している様子でした。授業全体を通して、和やかな雰囲気、生徒は安心してその場にいるように感じました。だから安心して間違えられる。間違えてもまた、次に発言できるのでしょう。先生が「この直角三角形どう？」と聞いた時の、「ステキ」「かわいい」には笑いました。2年生ならではの大人の答えですよね。最後の方で答えた数学の苦手なBさん、合っていて喜んでそれが「そのタンジェントの $\sqrt{3}$ は、マイナスをつけないの？」という質問につながりました。マイナスとマイナスでプラスになる難しいところ、Bさんが質問してくれて、他の生徒にとっても良かったですね。（2年・数学）

⑥ 丁寧な個別のアプローチ(少人数を活かして)

先生と生徒の1対1の個人面接で、読みのテストを実施していて、評価の観点が事前にプリントで生徒に提示されていたところがいいなあと思いました。(2年・英語)

説明や作業中にもこまめに生徒間を回り、助言、指導を行っていた。適切な指示が入ることで、生徒は自分の作品が出来上がっていく楽しさを感じているようだった。(2年・情報)

「一人ひとりにテキストのリーディングをさせ、助言をする」という授業。他の生徒が気にならないように、廊下で一人ひとり行ったためか、しっかり読んでいて良かった。また、個別の課題に対して助言されている点も良かった。小集団ならではの授業展開で2分割が生かされていた。(2年・英語)

⑦ 授業に向かう姿勢作り

携帯、化粧等を片付けさせる、着席の徹底等「授業を始める」雰囲気を作っていた点が良かった。最初に小テストを実施して、前回とのつながりや理解度を確認するとともに、授業を受ける集中力を高めていた点。生徒の学習意欲を高める声かけ。「これに気づいたら、ほぼ理解ができています」当、さりげない一言で生徒の顔が黒板にむかっていました。(2年・生物)

「さあ始めるぞ集まれ」ザワザワして集合。出欠と注意、活動開始。「ちゃんとやれよ」「こっちこっち」・・・(生徒)「集合して指示を聞いて活動する」という基本姿勢ができていて良かった。生徒同士の学び合いにも継がっていて良かった。(2年・体育)

⑧ 取り組みを促進させる工夫

プリントを用いて地図帳から都市などを調べる学習。何をするかとどうやるかが明確であったのが良かった。そのため生徒もよく取り組んでいた(一部除く)。机間巡視して質問を受けながら、取り組みを評価するという手法は、実技教科でよく使うが、調べ学習でも有効であると思った。一部の生徒は相談していましたね。今日の授業はたぶん一人ひとりの調べ学習であったようですが、グループでの調べ学習(やっているかもしれないが)もいいかなと思いました。(1年・現社)

生徒が日頃、よく目にしたり利用するものを例にあげて反応させていました。教科書だけではできない授業に魅力を感じました。(1年・現社)

生徒の行動1つ1つに丁寧に、そして臨機に対応しておられた。生徒もよく集中し、静かにしていました。1つ1つの指示が分かりやすかったです。

(1年・国語)

(3) 総括

今回、授業見学を行った10名は、それぞれの授業から得るものがあり、見学したことを肯定的に捉えていることが見学メモから伺える。授業公開週間を設定したのは授業研究のために有効であったと思われる。しかし、今回の見学者が10名に留まったのは、やはり残念である。学力向上、生徒の学習意欲の向上を考える時に、お互いに授業を開き、どういう場面で生徒がよく学んでいるのか、どういう場面では学ぶことができないのかを検討することは欠かせない。次回はもっと参加者が増えるように、参加しやすい仕組みづくりをする必要があると思われる。